

陸軍次官山脇正隆殿

治安肅正要綱及歸順匪團處理規定送付ノ件通牒

昭和十四年四月二十三日

北支那方面軍參謀長 山下

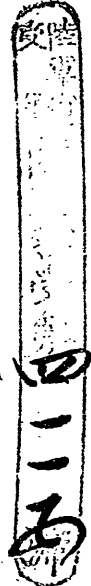
奉

文

治安肅正要綱及歸順匪團處理規定別冊ノ通改定セラル依テ各兵團ハ本
要綱及規定ニ準據シテ治安ノ肅正及歸順匪團ノ處理ヲ實施セラレ度

追テ昭和十三年方軍參一密第六九〇號及同方軍參二密第一四〇號ハ
廢止セラレタルニ付申添フ

方軍參一密第一七九號



8880

軍事極秘

治安肅正要綱

昭和十四年四月二十日
北支那方面軍司令部

- 一、本要綱ハ方面軍占據地域内治安肅正ノ爲方面軍ニ於テ統制ヲ要スル事項並ニ特ニ要望スル事項ヲ示ス
- 二、軍司令官及方面軍直轄兵團長ハ本要綱ニ基キ各管區ノ實情ニ即應スル如ク具體的實施要領ヲ規定スルコトヲ得

目次

第二章 總則

第二章 各機關ノ任務及隸屬

第三章 實施要領

其 一 軍 隊

其 二 憲 兵

其 三 支那側機關

第四章 歸順匪團ノ處理

第五章 交通通信

第六章 其 他

治安肅正要綱

第一章 總則

第一、治安肅正ノ目的ハ占據地域内ノ殘敵及匪團ヲ剿滅シ遊撃戦法ヲ完全ニ封殺シテ北支民衆ノ福祉ヲ増進シ安居樂業ノ明朗北支ヲ建設スルト共ニ長期建設ノ確固不動ノ礎石ヲ確立シ以テ速ニ出師目的ノ達成ヲ期スルニ在リ

第二、治安肅正ハ我軍隊ノ威力ニ依リテ殘敵及匪團ヲ剿滅若クハ威服スル肅正討伐ト次テ之ニ膚接スヘキ治安工作ト相俟テ其ノ成果ヲ全ウスルモノトス

治安工作ハ其ノ内容頗ル複雑多岐ナルモノアルモ要ハ皇軍ノ神聖ナル威容ヲ示シテ之ニ信賴悦服セシムルト共ニ民衆ノ實生活ニ觸レテ速ニ民生ノ安定向上ヲ促進シ以テ民心ヲ完全ニ把握スルヲ其ノ要諦トス是ヲ以テ凡百ノ施策ハ悉ク之ヨリ發シ徒ニ高遠ナル理想ノミニ趨ルコトオク常ニ卑近ニ求メテ現實ニ即セサルヘカラス

第三、軍隊カ殘敵匪團ノ討伐ヲ勵行シ嚴乎タル武威ヲ發揮スルト共ニ軍人軍隊ノ舉措ヲ嚴肅端正ニシテ恩威並ヒ行ハル、ハ民心把握ノ要諦ナリ之ニ反シ討伐退嬰ニ陷リ我武ヲ侮ラシメ或ハ住民ニ對シ暴逆非違ノ行爲ヲ敢テシ其ノ怨ヲ買ハンカ皇軍ニ對スル信賴ハ爲ニ全ク地ニ墜チ治安ハ一朝ニシテ其ノ根底ヨリ破壊セラル、ノミナラス遂ニハ聖戰ノ目的ヲモ汚辱スルニ至ルヘシ各級軍隊指揮官ハ嚴ニ部下ヲ戒飭スルト共ニ常ニ監督指導ヲ適正ニシテ絕對ニ過誤ナキヲ期セサルヘカラス

第四、治安肅正ノ諸工作ハ軍隊其ノ他各種機關之ヲ分掌スト雖常ニ一途ノ方針ニ準據シ完全ニ一元的統制ノ下ニ彼此連繫協調シ此ノ間些ノ間隙アルヲ許サス而シテ其ノ施策タルヤ一時的糊塗ニ墮スルコトナク民衆永遠ノ獲得ヲ目標トシ根本的且組織的ニ實施セラ

第五、既設交通線ヲ維持確保シ其ノ機能ヲ完全ニ發揮セシムルハ勿

論道路ノ修理新設水路ノ啓開通信網ノ復舊増設ハ兵力ノ移動補給
通信連絡等ニ至大ノ便益ヲ與フルノミナラス物資ノ流動ヲ活潑ナ
ラシメ民生ノ向上ニ資スルトコロ極メテ大ニシテ治安肅正ノ爲緊
急不可缺ノ要件ナリ是ヲ以テ軍隊ハ所在民衆ヲ指導シテ之カ整備
ニ任スルト共ニ之カ愛護ニ缺クルトコロナカラシムルヲ要ス

第六、殘存匪團ヲ懷柔シ授クルニ職ヲ以テシ無賴ノ遊民ヲ根絶スル
ト共ニ青少年訓練ヲ勵行シ學校教育ヲ復活シ新支那ノ精神的更生
ヲ圖ルハ當ニ治安肅正ニ至大ノ效果ヲ齎スノミナラス長期建設ノ
礎石タリ殊ニ軍隊カ適任ナル將校以下ヲ選拔シ實踐躬行ニ依ル青
少年訓練ハ軍隊ト民衆トノ接觸ヲ密ニシ迅速ニシテ而モ永續性ア
ル治安恢復ノ手段トシテ最モ有效適切ナルモノトス

第七、兵團長ハ治安恢復ノ爲軍隊ノ行フ政務其ノ他ノ指導ハ其ノ必
要ヲ認メサルニ至レハ成ルヘク速ニ之ヲ特務機關ニ移管セシメ軍
隊ヲシテ其ノ本然ノ訓練實施ニ專念セシムル如ク指導スルヲ必要

トス

此等指導ヲ軍隊指揮官ヨリ特務機關ニ移管セシムル時機ト地域トニ關シテハ治安恢復ノ實情ニ即シテ兵團長之ヲ定メ以テ兩者間ノ業務上ニ於ケル扞格ナカラシムルモノトス

第二章 各機關ノ任務及隸屬

第八、兵團長ハ討伐肅正ト治安工作トヲ完全ニ融合一體化セシムル如ク隸下軍隊及配屬諸機關ノ任務ヲ定メ之ヲ監督指導シテ作戰地域内ノ治安ヲ恢復スヘキ一切ノ責ニ任ス

第九、兵團參謀長ハ兵團長ノ命ヲ受ケ作戰幕僚タル參謀部ト政務幕僚タル特務機關トヲ區處シテ治安肅正ノ企劃ヲ統制並ニ其ノ實施ノ指導ニ任ス

之カ爲參謀長ハ特ニ特務機關ノ立場ニ對シ十分ナル理解ト同情トヲ持チ其ノ有スル特殊能力ヲ最高度ニ發揮セシムル如ク指導スル

モノトス

第十、特務機關長ハ兵團參謀長ノ區處ヲ受ケ政務指導ニ關スル企劃ニ參シ省（道）公署ノ行フ省（道）ノ政務ノ實施行政官ノ任命等ヲ指導ス

治安恢復シテ縣行政ノ指導ヲ軍隊指揮官ヨリ分離シ得ルニ至ラハ縣連絡員又ハ宜撫班ヲ指揮シテ縣公署ノ直接指導ニ任ス

第十一、特務機關長カ省（道）公署ヲ指導シテ行政官ヲ任命セシムルニ際シテハ當該地ノ治安維持會員又ハ地元ノ名望家中ヨリ適任者ヲ選定スルヲ可トス

縣公署ノ組織ハ當初ハ徒ラニ完全ナル形式ニ墮スルコトナク冗費冗員ヲ省キ專ラ治安維持上必要ナル最少限ノ人員ト勉メテ小規模ノ組織トヲ採ラシムルヲ可トス此等人員ノ選定、組織ノ決定ニ當リテハ現地ニ在ル軍隊指揮官ト事前ニ密ニ連絡スルヲ可トス

第十二、軍隊指揮官ハ其ノ擔任地域内ノ治安肅正ノ實施ニ關シ專ラ

其ノ責ニ任ス

之カ爲其ノ地域内ニ在ル憲兵、縣連絡員、宣撫班等ヲ指揮又ハ區處シテ一途ノ方針ノ下ニ速ニ治安ノ恢復ヲ圖ルモノトス

擔任地域内ニ在ル支那側警察、憲兵、保衛團、自衛團、新民會等ヲ區處シ又鐵道警備ニ關シテ鐵道從業員ヲ區處スルコトヲ得

第十三、縣連絡員ハ方面軍ニ隸屬シ各兵團ニ分屬ス

縣連絡員ハ配屬軍隊指揮官又ハ特務機關長ノ指揮ヲ受ケ縣行政特ニ治安恢復ノ指導ニ任ス

第十四、宣撫班ハ方面軍ニ隸屬シ各兵團ニ分屬ス

宣撫班ハ配屬軍隊指揮官ノ命ヲ受ケ占據セル地域ニ對スル宣撫特ニ治安恢復初期ニ於ケル自治機關ノ指導ニ任ス

第十五、各兵團宣撫指揮班ハ主任參謀ノ區處ヲ受ケ當該兵團ニ配屬セラレタル宣撫班ノ統轄ニ關スル事務ヲ行フ

宣撫指揮班ヲ配屬セラレサル兵團ニ於テハ要スルハ一般宣撫班ヲ以テ之ヲ兼ネシムルコトヲ得

第十六、軍隊指揮官ハ其ノ隸下將校以下ニシテ宣撫業務ニ適任ナル者ヲ選拔シ又ハ所要ノ人員ヲ雇傭シテ臨時宣撫班トシテ固有宣撫班ノ不足ヲ補填援助セシムルヲ可トス

各部隊ハ固有宣撫班又ハ臨時宣撫班少クモ一個ヲ獨立駐屯部隊ニ配屬シ得ハ一般將校以下ノ煩累ヲ解除シ得ルヲ望ム此等ヨリ生スル弊害ヲ未然ニ防遏スルコトヲ得

第十七、軍隊指揮官ハ配屬縣連絡員及宣撫班ヲシテ相互ニ協力援助セシムル如ク要スレハ兩者ノ任務ノ分界ニ關シ適宜ノ措置ヲ講スルモノトス

第十八、縣連絡員及宣撫班ノ人事補充等ハ方面軍ニ於テ處理ス兵團長ハ配屬セラレタル縣連絡員及宣撫班ノ人事補充等ニ關スル意見ハ之ヲ方面軍司令官ニ具申スルモノトス

第十九、鐵道警務員ハ鐵道守備ノ補助及鐵道警護ニ任ス
鐵道警備ニ關シテハ所在軍隊指揮官ノ區處ヲ受ケルモノトス

第三章 實施要領

其一 軍隊

第二十、治安肅正ノ範圍ハ各兵團作戰地域ノ特性及其ハ廣狹特ニ使用シ得ル兵力ノ大小等ヲ考慮シテ決定シ同時若クハ一地區毎ニ之ヲ行フ討伐實施後ハ治安確立シテ日本軍隊ヲ徹退スルモ尙克ク自衛能力ヲ整備シテ再ヒ匪化スルノ虞ナキニ至ル迄所要ノ日本軍ヲ駐屯セシムルコト極メテ肝要ナリ

第二十一、治安肅正ノ爲兵力ヲ配置スルニ方リテハ匪團ノ剿滅ヲ目的トスルモノノ外行政上ノ要點鐵道水路等主要交通線上ノ要衝並ニ重要資源ノ所在地等ヲ考慮シテ決定スルモノトス
分散配置ノ程度ハ治安ノ良否道路通信網ノ情況等ニ依ルヘキモ久

シク匪團ノ根據タリシ地區ノ肅正ノ爲ニハ徹底シタル高度分散配置ヲ必要トス

第二十二、分散配置部隊ハ其ノ駐留地ヲ根據トシ飽ク迄積極的ニ其ノ所在ニ討伐肅正ヲ反復シ匪團ヲシテ安住ノ時ト所トヲ得サラシメ逐次其ノ地域ヲ外周ニ擴大シテ間隙ナカラシムルヲ要ス
此ノ際殘匪ハ作戰地境若クハ地區ノ境界附近ニ逃遁蜷集スヘキヲ以テ地境附近ノ討伐ニハ特ニ意ヲ用フルコト肝要ナリ

第二十三、軍隊ハ先ツ殘敵及匪團ヲ討伐清掃シテ各其ノ占據セル地域ニ於ケル支那側自治機關ヲ復活シテ治安ノ恢復ヲ指導ス
之カ爲縣城若クハ之ニ準スル都市ヲ占據スルヤ所要ノ兵力ヲ駐屯シ其ノ掩護ノ下ニ殘留住民ヲシテ治安維持會ヲ設立シテ應急ノ治安恢復ニ當ラシム

次テ成ルヘク速ニ縣公署ヲ開所ス豫メ討伐ニ先チ縣公署要員ヲ準

備シアル場合ニハ勉メテ討伐軍隊ニ膚接同行セシメ戰禍ノ沈靜ヲ待チ速ニ開所シテ其ノ地域ノ治安恢復ニ任セシム

治安恢復ノ爲取敢ヘス爲スヘキ施策ハ先ツ警察、保衛團又ハ自衛團等ノ自衛組織ヲ復活シテ自衛力ヲ強化スルヲ以テ第一義トス

第二十四、新ニ治安ノ恢復セラレタル縣ニ對シテハ縣政復活ノ爲ニ

臨時政府ヨリ所要ノ期間縣政恢復工作費ヲ支給セラル

縣政恢復工作費ハ縣政復活ノ爲ニ眞ニ必要トスル事項就中警察、保衛團等治安ノ復活ノ爲ニ使用セララルヲ本則トス

別ニ縣政恢復費ニ引續キ縣政補助費ヲ支給セラル各縣ハ成ルヘク速ニ自活自營シ得ル如ク縣政ノ復活ヲ促進スヘキモノトス

第二十五、治安工作ヲ行フニ當リテハ兵團長ハ配屬特務機關ヲ指揮シ又軍隊指揮官ハ配屬憲兵、宣撫班、縣連絡員等ヲ指揮シテ討伐

成果ヲ利用シ速ニ治安維持會ヲ次テ縣公署ヲ成立セシム

爾後此等支那側行政諸機關ヲ指導シテ其ノ自發的活動ヲ誘導シツ

ツ迅速ナル縣政ノ擴充ニ努ム

第二十六、治安ノ肅正ハ日本軍隊ヲ中核トシ其ノ指揮下又ハ區處下ニアル特務機關、憲兵、警察、宣撫班、連絡員ハ勿論支那側各種行政機關、軍隊、警察、自衛團其ノ他鐵道、船舶等交通運輸ノ諸機關團體等凡百ノモノヲシテ一致協力セシムルコト肝要ナリ之カ爲兵團參謀長ハ時々必要ニ應シ參謀部幕僚、特務機關、部隊長、憲兵、省(道)公署吏員其ノ他所要ノ人員ヲ會同シテ綿密ナル具體的指導ヲナスト共ニ相互ノ意志ノ疏通ヲ圖ルモノトス其ノ分散シタル各地ノ軍隊指揮官モ亦前項ニ準シ其ノ擔任地域内ノ指導ヲ行フモノトス

治安恢復ニ伴ヒ此等支那側各機關ヲシテ逐次自ラ進シテ其ノ衝ニ當リ得ル如ク指導スルヲ必要トス

第二十七、各兵團各部隊ハ其ノ作戰地域内重要地區ニ模範的治安肅正地區ヲ作り軍隊及支那側各機關ヲシテ之ヲ模範トシテ各當該地

區ノ治安肅正ニ任セシムルヲ有利トス
 又治安工作ニ貢獻シタル團體及個人等ニ對シテ公機ヲ失ハス日本
 軍隊若クハ支那側政府等ヨリ表彰(賞與)ノ措置ヲ講スルヲ可トス
 第二十八、省縣警察、保衛團、自衛團等ハ成ルヘク其ノ地定住ノ良
 民ヨリ編成スルヲ原則トシ歸順匪團中素質優良者ヲ以テ代用スル
 ハ一時的便法トス
 前項自衛諸機關ハ情況ノ許ス限り軍隊ニ於テ之ヲ訓練シテ其ノ素
 質ノ向上ヲ圖ルト共ニ軍隊ト此等自衛機關トノ接觸ヲ密カシム
 ルモノトス
 自衛諸機關ニ要スル兵器ハ民間私有兵器ノ買上ケ又ハ歸順匪團等
 ヨリ押收セルモノ或ハ討伐ニ依リ鹵獲セルモノ等ヲ以テ之ニ充ツ
 ルモノトス
 前項ニ依リ軍隊カ自衛用兵器トシテ各種自衛機關ニ兵器ヲ交付セ
 ントスル場合ニハ兵團長ノ認可ヲ受クルト共ニ將來喪失ノ慮ナ

キ如ク其ノ管理ニ關シ取締リヲ嚴ナラシムルモノトス

兵團長ハ買上兵器ヲ自衛機關ニ支給セントスル場合ニハ豫メ方面軍司令官ノ認可ヲ受クルヲ要ス
彈藥ハ當分ノ間所要最少限ノモノヲ軍隊ヨリ直接支給スルコトヲ得

第二十九、民間私有兵器ハ努メテ速ニ回收スルモノトス但シ之ト併行シ自衛組織ヲ強化シテ住民ヲシテ匪團ニ對シ無防備ノマ、暴露

セシメサル如ク施策スルモノトス民間兵器ノ買収並ニ其ノ處理ニ關シテハ歸順匪團處理規定ノ條規ニ準據スルモノトス

第三十、保甲制度ヲ擴充シ自衛能力ヲ強化シ併セテ鄉村間ノ諜報、

警報網ヲ組織シ以テ逐次軍隊駐屯地ヲ中核トスル強固ナル鄉村連

合ハ自衛組織體ノ聚成ヲ誘導ス

此ノ際地方警察ノ指導ハ配屬憲兵等ヲシテ之ニ當ラシムルヲ可

ス

第三十一、分散配置ニ就キタル各部隊ハ其ノ地方優良青少年ヲ集メ

テ訓練ヲ實施シ軍隊ト民衆トノ接觸ヲ密ニスルト共ニ防共親日細

胞ハ核心タラシメ併セテ鄉村自衛力ノ強化ニ資スルモノトス

青少年訓練實施人爲ニ分軍隊自ラ行フモノ、外所在新民會ヲ指導シ

テ其ノ實行ヲ勵行スルト共ニ積極的ニ之ヲ援助指導スルモノトス

軍隊ハ行フ青少年訓練實施ハ爲ニ要スル經費ノ一部ハ別ニ定ムル

所ニ從ヒ之ヲ兵團ニ令達ス

第三十二、分散各部隊中主要都市等ニ位置スルモノハ其ノ地方ノ情

況ニ應シ速ニ學校教育ヲ復活シ商取引機關又ハ運輸機關等ノ再建

ヲ促進シテ民心ノ安定ニ資スルモノトス

第三十三、兵團長ハ其ノ指揮下又ハ區處下ニ置カレタル支那側軍隊

ヲシテ直接討伐及警備等ニ使用シ又ハ之ニ協力セシムル等ノ場合

ニハ勉メテ獨立シタル地域ヲ與ヘ日本軍トノ混淆ヲ避クルヲ可トス

ス

而シテ此ノ指揮權又ハ區處權ヲ下級者へ移讓スルコトハ勉メテ之ヲ避クルヲ可トス

討伐警備ニ協力セシメタル場合ハ速ニ之ヲ方面軍軍事顧問部ニ通報スルモノトス

第三十四、軍隊カ治安維持會又ハ縣公署ノ指導等ニ關スル事項ヲ處理スルニ當リテハ特務機關又ハ軍隊配屬ノ縣連絡員、宣撫班等ヲ介シテ之ヲ實施シ其ノ他ノ者カ直接干與スルコトハ勉メテ避クルヲ可トス

經濟建設ニ關スル事項ハ專ラ特務機關ヲシテ之ニ當ラシムルヲ可トス

第三十五、宣撫班ノ行フ宣撫實施ハ努メテ支那人特ニ土地ノ古老名望家等ヲ利用シテ之ニ當ラシムルヲ可トス

其二 憲兵

第三十六、憲兵ハ保安警察ニ關シテハ主トシテ叛逆行爲ノ警防彈壓

及軍占據地域ニ於テ一般ノ安寧秩序ヲ維持スル爲メ必要ナル警察務ノ執行ニ任スルモノトス

第三十七、憲兵ハ軍事警察ニ關シテハ軍機ノ保護及防諜並ニ軍紀風紀ヲ維持其ノ他軍事上ノ利益ヲ害シ又ハ軍ニ不利ナル影響ヲ與フル各種陰謀及策動ノ豫防鎮壓ニ任スルモノトス

第三十八、憲兵ハ警備及治安上必要ナル情報及資料ヲ蒐集ニ努ムルモノトス

逐次匪賊ノ便衣化スルニ及シテ憲兵ノ警務的技能ニ期待スル所ハ愈々増加スルモノトス

第三十九、憲兵ハ防衛ニ關シ所在軍隊指揮官ノ區處ヲ受クルモノトス
討伐肅正ニ當リテハ所要ノ期間憲兵ノ一部ヲ軍隊ニ配屬スルヲ可トス
第四十、憲兵ハ治安ニ關係アル警察務ニ關シテハ支那側警務機關ヲ區處スルモノトス

其三 支那側機關

第四十、支那側治安軍隊ハ臨時政府ニ隸屬シ之ヲ臨時政府所管各

省内ニ分駐シテ剿匪警備ニ任セシム

治安軍隊ハ剿匪及警備ニ關シテハ所在兵團長ノ區處ヲ受クルモノナリ

第四十二、治安軍隊ノ配置ハ方面軍ニ於テ全般ノ情況ヲ顧慮シテ之

ヲ定メ軍事顧問ヲ通シ治安部ヲシテ實施セシム

兵團長ハ治安軍隊ノ駐屯地ヲ變更セントスル場合ニハ之ヲ方面軍

司令官ニ具申スルモノトス但シ討伐ノ爲一時駐屯地ヲ離ルル場合

ハ此ノ限リニ非ス

第四十三、治安軍隊ノ教育、人事、經理等ノ指導ハ專ラ軍事顧問ノ

行フ臨時政府治安部ニ對スル内面指導又ハ治安軍隊配屬ノ軍事顧

問部所屬將校（通常所在兵團長ノ指揮ヲ受ケシム）ノ直接指導ニ

俟ツモノトス

第四十四、治安軍隊ノ諸給與ハ臨時政府之ヲ擔任ス但シ討伐ニ際シ

テ使用シタル彈藥ノ補充ハ當分ノ間當該治安軍隊ヲ區處スル兵團

之ニ任スルモノトス。治安軍隊ノ輸送ハ軍事輸送ニ準シ取扱フモノトス。又討伐ニ依リ生シタル傷病者ハ支那側衛生機關ノ成立迄ハ之ヲ區處シタル部隊ニ於テ其ノ治療ヲ施スモノトス。

第四十五、省縣市所屬ノ警察並ニ縣城ニ於ケル保衛團ハ省長、縣知事又ハ市長ノ指揮下ニアリテ警察務並ニ自衛剿匪ニ任ス。此等支那側機關ハ治安警備ニ關シテハ所在軍隊指揮官ノ區處ヲ受クルモノトス。

第四十六、鐵道愛護村ハ鐵道兩側各概ネ十軒ノ範圍内ニ在ル村落ヲ以テ結成シ一定區域ノ鐵道ノ保護ニ任シ且ツ情報ノ蒐集等ニ依リ鐵道守備ニ協力スルモノトス。愛護村ノ結成並ニ爾後ノ指導ハ所在軍隊指揮官ノ區處ノ下ニ鐵道側諸機關其ノ中核トナリテ之ヲ行フ又軍隊指揮官ハ此等愛護村ノ組織ヲ逐次行政系統ト調和セシムル如ク兩者ノ關係ニツキ調整ヲ

圖ルモノトス

愛護村ニ對スル賞與及福祉増進ニ要スル經費ノ支出並ニ諸施設ハ鐵道側ニ於テ負擔スルモノトス

第四十七、宣撫班ノ擔任シアル鐵道愛護村ノ指導ハ鐵道側ノ準備ノ進ムニ從ヒ逐次之ニ委譲スルモノトス

第四十八、鐵道愛護村ヲシテ鐵道ノ兩側各五百米以内ノ地ニハ高稈植物ヲ植ヘサル如ク指導セシムルモノトス

前項ノ指導ト相俟テ其ノ地方ノ實情ニ應スル如ク代植ニ關シ之ヲ指導シテ民衆生活ノ安定ニ遺漏ナカラシムルモノトス

第四十九、軍隊指揮官ハ其ノ擔任地域内ニ於ケル通信線ノ保護並ニ主要道路、水路等ヲ掩護ニ關シテモ概ネ前諸項ニ示ス鐵道愛護ニ關スル規定ニ準シ愛護村ヲ結成セシメ之カ防護ニ關スル義務ヲ負擔セシムルモノトス

第五十、鹽警隊ハ各所轄鹽務局ニ屬シ鹽輸送ノ掩護私鹽密賣ノ防止

鹽田鹽倉庫ノ看守等ニ任ス
此等鹽警隊ノ編成並ニ其ノ指導ニ關シテハ所在軍隊指揮官之ヲ區
處ス

第四章 歸順匪團ノ處理

第五十一、歸順匪團ニ對スル處理要領ハ別冊「歸順匪團處理規定」
ニ依ルモノトス

第五十二、歸順匪團ノ使用ニ當リ其ノ特性ヲ利用セハ潛行敵匪團ノ
發見奇襲急襲等ニ於テ至大ノ效果ヲ發揮スルコトアリ
但シ歸順ニ名ヲ籍リ日本軍ヲ利用シテ治安攪亂ノ行爲ヲ爲サシメ
サル如ク嚴ニ監督スルヲ要ス

第五十三、歸順匪團ヲ以テ他ノ匪團ヲ討伐セシムル場合消費彈藥ノ
補給ハ之ヲ監督利用シアル兵團ニ於テ處理スルモノトス
特ニ此等支給彈藥ヲシテ敵手ニ入ラシメサル如ク十分ノ戒慎ヲ加
フルヲ要ス

第五章 交通通信

第五十四、警備用道路ノ構築ハ臨時政府建設總署ニ於テ特ニ計畫スルモノ以外ハ各兵團ニ於テ計畫シ配當セラレタル豫算ノ範圍内ニ於テ各地軍隊指導ノ下ニ縣公署等ヲシテ或ハ軍隊自ラ土民ヲ使役シテ之ヲ行フモノトス、建設總署ノ計畫スルモノニ對シテモ各兵團ハ軍事上ノ見地ヨリ之ヲ指導スルコトヲ得

軍隊ノ構築スル警備道路上ノ術工物ノ材料ハ現地ニ於テ軍隊自ラ之ヲ蒐集スルヲ本則トスルモ特ニ要スルモノハ方面軍司令部ニ請求スルモノトス

第五十五、警備用通信網ハ差當リ從來ノ縣有電話ヲ復舊スルノ外ハ軍自ラ必要トスル通信網ヲ構成ス

華北電信電話會社ヲシテ架設セシムル場合ハ方面軍司令部ノ指導ニ依ル但シ現地ノ實施ハ各兵團ヲシテ監督セシムルモノトス

第五十六、各縣公署ニハ無線電信器、「ラジオ」受信器等ヲ裝置シテ

隣接縣公署又ハ省道公署等下ノ連絡ヲ準備セシム
 第五十七、警備用道路及同通信網等ヲ軍自ラ構築スル場合ニハ之ニ
 要スル經費ハ別ニ定ムル所ニ依リ之ヲ兵團ニ令達ス

第六等 其他

第五十八、軍人軍隊ノ行動ヲ嚴正ナラシムルハ勿論臨時雇傭スル通
 譯、自動車運轉手、御用商人等軍所屬日鮮人ノ支那住民ニ對スル
 行爲ハ之ヲ嚴ニ取締ルコト肝要ニシテ此等ノモノノ犯ス非違ハ特
 ニ治安肅正上重大ナル影響ヲ及ホスコトアリ

第五十九、駐蒙軍作戰地域内ニ於テ其ノ特殊性ニ依リ本規定ノ趣旨
 ナ適用シ難キ場合ニハ軍司令官ニ於テ適應ノ措置ヲ講スルコトヲ
 得

0363

軍事極秘

歸順匪團處理規定

昭和十四年四月二十日
北支那方面軍司令部

一、本規定ハ方面軍占據地域内ニ於ケル歸順匪團ノ處理ニ關スル事項並ニ特ニ要望スル事項ヲ示ス

二、軍司令官及方面軍直轄兵團長ハ本規定ニ基キ各管區ノ實情ニ即應スル如ク具體的實施要領ヲ規定スルコトヲ得

0365

0365

目次

第一 方針
第二 要領

歸順匪團處理規定

第一、方針

第一、歸順匪團處理ノ目的ハ方面軍占據地域内ノ匪團ヲ成ルヘク速ヤカニ清掃剿滅シテ治安攪亂ノ素因ヲ芟除スルニ在リ
本規定ニ準據シテ處理シ得サル匪團ニ對シテハ徹底的ニ討伐シテ其ノ剿滅ヲ期スルモノトス

第二、歸順匪團ノ處理ハ無條件歸順ニ依リ其ノ武裝ヲ解除スルト共ニ歸農若クハ勞役人夫等他ニ轉業セシメテ匪團發生ノ根源ヲ清掃スルヲ本則トス

但シ左記ニ掲クルモノハ武裝ノ儘歸順セシムルコトヲ得

1 歸順匪團中素質特ニ優良ニシテ將來臨時政府ノ治安軍隊ニ改編シ得ル見込アルモノ

2 謀略的利用價值ヲ有スルモノ

第二、要領

第三、無條件歸順匪團ニ對シテハ先ツ武装ヲ解除ス之カ爲要スレハ其ノ所有スル兵器ヲ買收シ所要ノ補償ヲ給スルコトヲ得
 武装ヲ解除セラレタル者ハ努メテ之ヲ歸農セシムルモ各種ノ事由ニ依リ歸農シ得サルモノハ勞役人夫トシテ滿洲國ニ移入セシムルカ臨時政府又ハ其ノ他ノ行フ諸工事ノ勞役人夫トシテ雇傭セシムル等各種ノ措置ヲ講シテ生業ニ就カシムルモノトス
 前項ニ依ル轉業處理間要スレハ一月以内ヲ限度トシ饑渴ヲ凌クニ足ルヘキ食料（金錢）ヲ支給スルコトヲ得

第四、兵團長ハ特務機關長ヲシテ前條第二項ニ示ス歸順匪團ノ歸農又ハ轉業ヲ處理セシムルモノトス

情況ニ依リ強制的ニ滿洲ニ移出セシムルヲ可トスルコトアリ

第五、特務機關長ハ常ニ各部隊ト密ニ連絡シテ歸順匪有無ノ情況ヲ明ニスルト共ニ滿洲國及臨時政府等ノ勞力需要ノ情況ヲ明ニシテ

機ヲ失セス匪團ヲ處理シ得ル如ク準備スルモノトス

第六、匪團ノ武裝解除ニ當リ買收シタル兵器ハ之ヲ支那側自衛機關
 裝備ノ爲ノ現地使用ト中央移送（臨時政府所屬ノ分タルコトヲ明
 記シ方面軍兵器部宛送付ス）トニ區分シ方面軍司令官ニ報告スル
 モノトス

但シ支那側自衛機關用現地使用ノ兵器ノ數ノ決定ハ豫メ方面軍司
 令官ノ認可ヲ受クルモノトス

各部隊ノ裝備補填ノ爲ニ使用セントスル場合モ亦右ニ準ス

第七、兵團長ハ匪團中素質特ニ優良ト認ムルモノハ方面軍司令官ノ
 認可ヲ得テ武裝ノ儘歸順セシムルコトヲ得

第八、兵團長カ武裝歸順ヲ認可スルニ當リテハ凡有手段ヲ講シ其ノ
 内容ヲ精査スルト共ニ峻嚴ナル淘汰ヲ行ヒ嚴選シテ之ヲ決定スル
 モノトス

兵團長ハ歸順認可後ト雖監督指導ヲ嚴ニシテ絶エス淘汰ヲ行ヒ將來ノ利用價值十分ナルモノ以外ハ逐次淘汰シテ遂ニ之ヲ解消スル如ク指導スルヲ可トス

第九、武裝歸順ヲ認可セラレタル匪團ニ對シテハ所要ノ給與ヲ支給スルコトヲ得

前項ニ依ル給與額ハ歸順匪團ノ素質特ニ利用價值等ニ關スル兵團長ノ報告ニ基キ方面軍司令官之ヲ定ム

第十、兵團長ハ武裝歸順匪團ヲ所在警備ノ軍隊指揮官ヲシテ指揮監督セシムルモ成ルヘク上級指揮官ヲシテ之ニ當ラシメ下級指揮官ヲシテ直接之ニ當ラシメサルヲ可トス

第十一、武裝歸順匪團ノ指揮監督ヲ命セラレタル軍隊指揮官ハ努メテ特定地域ニ之ヲ配置シ獨立ノ任務ヲ與ヘテ日本軍隊トノ混淆ヲ避クル如ク使用スルヲ可トス

第十二、武裝歸順匪團ニシテ素質特ニ優秀ニシテ將來ニ對スル利用

價值十分ナルモノハ臨時政府ノ治安軍隊ニ改編ス

方面軍司令官ハ前項ニ關スル兵團長ノ報告ニ基キ内容ヲ審査シ軍事顧問ヲ介シ臨時政府ト協議決定ノ上其ノ採否ヲ關係兵團ニ通達ス

第十三、謀略的目的ヲ以テ匪團ヲ武裝ノ儘歸順セシムル場合ノ處置ハ概ネ前諸項ヲ準用スルモノトス

兵團長ハ歸順實施ニ先チ豫メ方面軍司令官ニ報告シ其ノ認可ヲ受クルモノトス

第十四、兵團長歸順匪團ヲ處理シタル時ハ歸順匪團ノ隊長名、人員、所有スル兵器彈藥ノ概數、今後ノ駐屯地、將來ノ利用價值其ノ他重要ナル事項ヲ成ルヘク速ニ方面軍司令官ニ報告スルモノトス

第十五、前記諸項ノ實施ニ要スル經費ハ臨時政府ノ負擔トス

各兵團ハ歸順匪團ノ情況又ハ買上兵器ノ數ニ應シ其ノ都度所要經費ヲ方面軍司令部ニ請求スルモノトス
但シ武裝歸順ヲ認メラレタル匪團ノ維持費ニ關シテハ豫メ將來ヲ

判断シ一括請求スルコトヲ得
第十六、駐蒙軍作戦地域内ニ於テ其ノ特殊性ニ依リ本規定ノ趣旨ヲ
適用シ難キ場合ニハ軍司令官ニ於テ適應ノ措置ヲ講スルコトヲ得

六